

# 平成 28 年度那覇市民意識調査報告書について (5/10 記者会見資料)

平成 29 年 5 月 企画調整課

## I. 調査の目的

日常生活に関する市民意識の把握と、市が取り組んでいる政策に対する市民満足度と重要度を把握・分析し、今後の市政運営に反映させるための参考資料とする。

また、第 4 次那覇市総合計画の施策ごとに設定された進捗管理指標について、本調査にて実施するとされているものを引き続き調査実施した。

## II. 調査項目（質問総数は、分岐質問含め 61 問）

### (1) 基本項目（5 項目）

性別、年代、居住地区、居住年数など

### (2) 日常生活等に関する意識調査（13 項目）

住み心地、自治会、協働、子育て支援など

### (3) 第 4 次那覇市総合計画の指標調査（20 項目）

まちづくり活動に参加している市民の割合、市政運営に対する満足度、子育て施策に対する満足度、地球環境保護のための実践項目数など

### (4) その他（幸福度調査）（1 項目）

### (5) 政策に対する満足度・重要度調査（2 項目）

協働によるまちづくり、健康づくりと地域医療の充実、地域の支えあい、地球環境への配慮、子どもの視点に立った環境づくりなど

## III. 調査の実施結果（郵送法にて実施）

### (1) 調査票送付実数 5,000 人

対象：本市の男女比率、各年代比率、各地区（本庁、真和志、小禄、首里）の人口比率に応じて等間隔により抽出した、満 20 歳以上の市民

### (2) 回収実数 1,568 人

### (3) 回収率 31.4%

### (4) 調査期間 平成 28 年 9 月 1 日～9 月 30 日（30 日間）

### (5) 集計 コンピュータによる単純集計・基本項目とのクロス集計

## IV. 調査結果の概要

報告書 P19～P28（調査全体の総括） P29 以降は各調査の詳細

### (1) 日常生活等に関する意識調査結果（新規質問や主要項目等の結果に注目）

#### ①那覇市の住み心地（質問 7）

「非常に住みよい」「まあ住みよい」と回答した市民の割合は前回調査を維持している。

- ・「非常に住みよい」と「まあ住みよい」の“住みよい”と感じている市民の割合は過去 2 番目の 65.1%（前回調査（H26）は過去最高の 65.4%）

※調査結果の詳細（報告書 P36～）

#### ②地域（小学校区）における課題（質問 9）

年代毎・地区毎に課題の違いが確認された

- ・「防犯活動」と回答した市民の割合が 16%で最も高い。（前回調査では 4 位）
- ・年代別で見ると、20 代では「交通安全」、30 代では「子育てに対する支援」、40・50 代では、「防犯活動」、60・70 代以上では「住民同士の交流」の課題認識が高い。
- ・居住地区別で見ると、本庁地区・真和志地区・小禄地区では「防犯活動」、首里地区では「交通安全」の課題認識が高い。

※調査結果の詳細（報告書 P44～）

#### ③ 市政への関心（質問 10）

「関心がある」と回答した市民の割合が 6 割以上を維持している。

- ・「非常に関心がある」と「まあ関心がある」の“関心がある”市民の割合は、65.3%（前回調査 68.1%）
- ・「まったく関心がない」「あまり関心がない」と回答した割合が高いのは、年代別では「20 代」、居住地区別では「小禄地区」、居住年数では「1 年未満」となっている。

※調査結果の詳細（報告書 P46～）

④ 議会に求めること（質問 13）

「地域問題や市民相談への対応」や「議員定数や報酬などの見直し」と回答した市民の割合が高い。

- ・「地域問題や市民相談への対応」と回答した市民が 806 人、「議員定数や報酬などの見直し」市民は 560 人。

※調査結果の詳細（報告書 P52～）

⑤ 「性の多様性」の取り組みについて（質問 17）

「賛成」・「どちらかといえば賛成」と回答した市民の割合が約 6 割となり、市の取り組みが概ね受け入れられていると考えられる。

- ・「賛成」「どちらかといえば賛成」は 59.3%
- ・「反対」「どちらかといえば反対」は 15.8%

※調査結果の詳細（報告書 P62～）

⑥ 誰でも快適に移動できるまちづくり（質問 19）

「歩きやすい歩道を整備すること」が重要と回答した市民の割合が高い

- ・「歩きやすい歩道を整備する」と回答した市民が 592 人、「バスを利用しやすくする」が 447 人、「休憩施設を整備する」が 381 人。

※調査結果の詳細（報告書 P66～）

⑦ ボランティア活動を支援する取り組みについて（質問 22）

「市民への普及啓発」と回答した市民の割合が高い。

- ・「市民への普及啓発」と回答した市民が 717 人、「技術や知識などの研修会、講習会の開催」が 677 人、「登録制により、ボランティアを募集するものとボランティア活動を希望するものとの仲介」が 464 人。

※調査結果の詳細（報告書 P72～）

⑧ 市街地活性化について（質問 23）

中心市街地商店街における市民離れが前回調査より進んでいる。

・「全く行かない」と「年1～2回」の“ほとんど行かない”市民の合計は下記のとおり。

「国際通り」は 57.0% （前回調査は 52.5%）

「マチグラー」は 67.1% （前回調査は 65.5%）

※調査結果の詳細（報告書 P74～）

⑨ こどもの貧困解消・こどものみらいを応援する取り組みとして効果的だと思う施策について（質問 27）

「就学前の保育・教育に要する保育料減免などの経済的支援」と回答した市民の割合が最も多い。

・「保育園やこども園といった就学前の保育・教育に要する保育料減免などの経済的支援」と回答した市民が 906 人、「無料学習塾やこども食堂などの居場所づくりの支援」が 808 人。

※調査結果の詳細（報告書 P86～）

⑩ 外国人観光客の受け入れについて（質問 35）

「好ましいがマイナス要因もある」と回答した市民の割合が 5 割を超えている。

・「好ましいと感じている」と「好ましいがマイナス要因もある」の“好ましい”と感じている市民の合計は、74.7%

「好ましいと感じている」21.2%、 「好ましいがマイナス要因もある」53.5%

※調査結果の詳細（報告書 P102～）

## （2）第4次那覇市総合計画の指標調査の調査結果

今回調査において 2017 年の「めざそう値」をすでに達成した指標については、20 項目中 4 項目であった。

※調査結果の詳細（報告書 P107～）

### (3) その他

#### ① 市民の幸福度 (質問 57)

**10点満点中 6.73点 (前回調査 6.39)**

- ・ 属性別に見ると、性別では「女性」、年代別では「30代」、居住年数別では「3～5年」、居住地区別では「首里地区」の割合が最も高い。

※調査結果の詳細 (報告書 P157～)

### (4) 那覇市の政策に対する満足度・重要度調査の調査結果

第4次総合計画で掲げた25の政策について、市民の評価を鮮明に現すため、全政策の得たポイントを集計した平均値との相対評価を実施した。

**満足度平均評価点：2.41**

- 1位：上下水道の整備 (2.86)
- 2位：資源循環型社会 (2.72)
- 3位：文化の継承と発展 (2.69)

**重要度平均評価点：2.79**

- 1位：健康づくりと地域医療の充実 (2.96)
- 2位：子育て支援と就学前教育・保育 (2.93)
- 3位：衛生的な環境の確保 (2.91)

※調査結果の詳細 (報告書 P161～)